

戦争時の疎開 絵本で後世に

沖縄出身・普久原さん(熊本市)の体験

崇城大生がイラストで協力



疎開体験の絵本を書いた有田英樹さん(前列左)と妻の厚子さん(前列中央)。イラストは後列3人を含む崇城大芸術学部(熊本市西区)の学生4人が担当した。

太平洋戦争時に沖縄から県内に疎開し、現在も熊本市に暮らす普久原朝輝さん(88)＝那覇市出身＝の体験を基にした絵本「クリぞう」が完成し、今月出版された。繊細なイラストは崇城大(熊本市西区)の学生が手掛けた。

戦況悪化に伴い、普ん(61)＝大分県別府市＝が他の体験者の話も加えて文章にした。有田さん夫妻は15日、崇城大を訪ね学生を調べて試行錯誤しながら、資料を揃えて試験錯誤しながら、資料

年、船と列車を乗り継ぎ旧千丁村(現八代市)に疎開。周囲の子どもと交流した一方、米軍機の機銃掃射に襲われ、娘の有田厚子さん(62)が代表を務める一般社団法人が昨年から進められてきた。若いクリエイターを育てるため、いた、平岡歩さん(20)74。(高宗亮輔)

機銃掃射に襲われ、娘の有田厚子さん(62)が代表を務める一般社団法人が昨年から進められてきた。若いクリエイターを育てるため、いた、平岡歩さん(20)74。(高宗亮輔)

機銃掃射に襲われ、娘の有田厚子さん(62)が代表を務める一般社団法人が昨年から進められてきた。若いクリエイターを育てるため、いた、平岡歩さん(20)74。(高宗亮輔)

機銃掃射に襲われ、娘の有田厚子さん(62)が代表を務める一般社団法人が昨年から進められてきた。若いクリエイターを育てるため、いた、平岡歩さん(20)74。(高宗亮輔)